

栽培暦

月	3			4			5			6			7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主 な 作 業	(春播き初夏どり栽培) 																										
	(夏播き秋冬どり栽培) ← 病虫害防除 →																										

■栽培のポイント

1. 排水が良く、肥沃なほ場を選定する。
2. 春播きでは、初期生育を確保するため、トンネル等で保温を徹底する。
3. 夏場の育苗では、遮光資材等により気温、地温を下げる。
4. アブラナ科作物と連作しない。

■品種・種子量 緑嶺、ハイツSP、ピクセル。a 当り 3~4 ml。

■播種 128 穴セルトレーに市販の野菜専用で肥料分の少ない培養土を詰め、播種前に培養土が均一に湿るよう十分にかん水する。10mm 程度の深さに 1 粒ずつ播種する。セル間の仕切面がみえる程度に覆土し、発芽までは濡れ新聞等で被覆し乾燥を防ぐ。

育苗 発芽したら新聞紙を取り除き（播種後 2~3 日）、セルトレーは水稻用育苗箱に載せ、それをパイプ等の上に置き高床式にする（地面と空間をあける）。その後はムラがないようにかん水する。育苗はハウス内か 1 m 程度の幅のトンネル内で、寒冷しゃ被覆をして育苗する。温度管理に注意し、徒長しない「がっちり」した苗に育てる。播種後 10~15 日目以降は、肥切れしないように液肥で追肥を行う。

育苗期間は 20~25 日で、根鉢が 2/3~3/4 くらいまわり本葉 2.5~3 枚頃に定植する。

摘心栽培では、本葉 3.5 枚時に 3 枚残して摘心する。

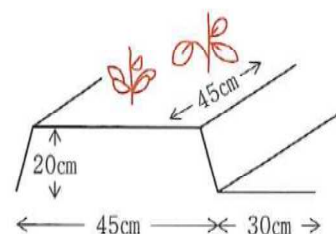
施肥例

(a 当り)

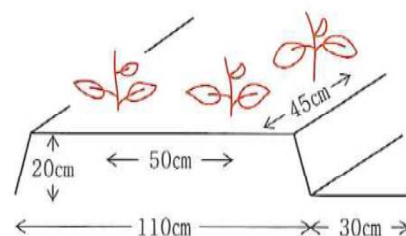
肥料名	基肥	追肥	備考
完熟堆肥	200kg	—kg	成分量
苦土石灰	12	—	窒素 2.4 kg
ホーソ入りそさい2号	15	—	リン酸 1.4
磷硝安加里 S604	—	3	加里 1.9

うねつくり

(1条植)



(2条植)



■定植準備

施肥 標準施肥量は a 当り窒素：2.5～3.0 kg、リン酸：1.9～2.0、果里：3.0～3.45 kgで、そのうち窒素、加里の30%は追肥として施す。ホウ素、モリブデン欠乏が出やすいので、完熟堆肥の施用、土壌酸度の適正化 (pH 5.5～6.5) に努め、細かく耕うん・碎土する。

うねつくり うね幅は、1条植えて75 cm、2条植えて150 cmを標準とし、水田転作ほ場では、高さ30 cmの高うね栽培とする。

■定植 植え穴には十分かん水し、しみ込んだところで定植する。根鉢を崩さないようにし、深植えに注意して植え付ける。

■定植後の管理

土寄せ 定植後30日頃に追肥を行い、その際、中耕、土寄せをして株の倒伏を防止する。特に、水田転作ほ場では、排水を良くするためにも必ず行う。

■病虫害防除 病害では根こぶ病、べと病、軟腐病、黒腐病の発生が見られる。根こぶ病は酸性土壌、排水不良地で発生しやすいので、その対策を徹底し、作付け前に防除を行う。軟腐病は高温多湿期に発生して花蕾を侵すので、排水と根張りを良くし、健全な発育をさせることが大切である。

■収穫 定植後50～60日で収穫期に達する。花蕾が十分に発育し、表面が均一になっている開花直前のものが適期であり、朝夕の涼しい時間帯に収穫する。